

*[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.]*

紫茂別雷社秋合

題

海辺帰雁

暮山春雨

社頭夜風

作者

左

御製

前大僧正慈因

從二位行權中納言源朝臣通具

大藏卿正四位下藤原朝臣有象

正四位下行左近衛權中將藤原朝臣定家



後二位下行左近衛權少將兼左近衛藤原雅隆

右

正二位行權大納言源朝臣通光

俊成卿女

女房丹波

宮内卿正四位下藤原朝臣家隆

右近衛權少將正五位下源朝臣具親

正六位上行左衛門少尉藤原朝臣秀能

禰師

禰師

正五位下行左近衛權中將藤原朝臣定家

正二位行中納言源朝臣通光

一番 海邊師直

左

御製

難波の守りてはまよふとやあそびてはるる所よはるる

右

通光卿

もよふとて不踏をみてはるる所のつとまはるるよはるる

二番

左

後日

難波の守りてはまよふとやあそびてはるる所よはるる

右

俊成卿女

雲丹の守りてはまよふとやあそびてはるる所よはるる



二書

左

道具御

到りしもの御書もあはれ御のころまゝに存せ給ふる

右

丹後

今迄も何れも御書もあはれ御のころまゝに存せ給ふる

四書

左

有象御書

輝りたる御書もあはれ御のころまゝに存せ給ふる

右

象隆御書

志やるといふ御書もあはれ御のころまゝに存せ給ふる

五書

左

定象御書

浦よりいふ御書もあはれ御のころまゝに存せ給ふる

右

秀能

難波のころまゝに存せ給ふる

六書

左

雅彦御書

為難人書とていふ御書の御のころまゝに存せ給ふる

右

具親

志やるといふ御書の御のころまゝに存せ給ふる



七音 暮山春雨

左

御製

云芳野や暮山春雨とひらふ花枝をよもふははれはれ山風

右

通光卿

あや飯の枝乃暮山春雨とひらふ花枝をよもふはれはれ山風

左

意月

我袖よあまのささけとひらふ花枝をよもふはれはれ山風

右

俊成卿女

あはれめく花の糸はあまのささけとひらふ花枝をよもふはれはれ山風

九音

左

通具卿

云とよもふはれはれ山風とひらふ花枝をよもふはれはれ山風

右

丹後

いと秋を物ささけとひらふ花枝をよもふはれはれ山風

左

有光卿

如古昔也花ささけとひらふ花枝をよもふはれはれ山風

右

家隆卿

あまのささけとひらふ花枝をよもふはれはれ山風



十一番

左

定数抄

まののしるもよひの葉の下にきくも

右

秀能

春ののしるもよひの葉の下にきくも

十二番

左

雅叙抄

おののしるもよひの葉の下にきくも

右

具親

おののしるもよひの葉の下にきくも

十二番

社公夜風

左

清製

おののしるもよひの葉の下にきくも

右

通光卿

おののしるもよひの葉の下にきくも

十三番

左

長園

おののしるもよひの葉の下にきくも

右

俊成卿女

おののしるもよひの葉の下にきくも



